

## 様式3

## 会議記録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第2回近江八幡市家庭教育推進協議会		
開催日時	令和4年3月1日（火）10：00～11：00		
開催場所	市役所南別館 2F 教育委員会会議室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	◎岡田委員 ○秋村委員 衛藤委員 五嶋委員 富江委員 熊木委員 中江委員 川端委員 西内委員  <事務局> 東課長 岡本指導主事 国本指導主事		
次回開催予定期日	令和4年 6月～7月		
問い合わせ先	所属名：近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 担当者名：岡本 賢治 電話番号：0748-36-5533 E-mail：045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録	・ 要約	要約した理由 発言内容が整理され、記録として残すのに適しているため
事務局 生涯学習課長 会長 事務局 副会長	1 開会 2 あいさつ（生涯学習課長） 3 あいさつ（推進協議会会長） 4 報告 ①訪問型家庭教育支援モデル市 ②各小学校訪問について ③市子育てサロンについて ④小学校への家庭教育支援基盤構築事業の発信について ⑤サポート一覧について 5 意見交流 アウトドアで皆さんのが思っていることや、やっていることを話す場がある		

		とスッキリするし、先のことが見えてくる。地域ごとの課題が見えてきたことは大変良かった。地域とのつながりが薄いところは、どのようにバトンタッチするのか難しいと思う。保護者の伴走者がいることは大変良いと思う。
委員		サポート一覧は保護者が見ても分かりやすいので、手元に届けばと思った。自分の思いを伝えたり発散する場がある方がいいと思う。話を聞いてもらえる場が大事だと思うので、子育てだけでなくその人の人生についても話せるといいと思う。
事務局		今のサポート一覧は保護者向けではない。来年度保護者向けの一覧も作成したいと考えている。
委員		各学校に訪問された中で、子どもセンターに関するご意見がある。以前は、子育て支援に関わる支援者で中学校区子育て支援ネットワーク会議を実施していたが、コロナ禍により実施できていないことからのご意見と察する。先ほど、話を聞いてもらえる場が大事という意見が出たが、センターはその役割を担っている。子育てに悩み最悪虐待に陥らないよう支援をしたいと感じている。また、中学校区のまとめ役も各センターが担っているが、連携できている部分とそうでない部分があるので、小学校区の中で、子どもたちに関わる人同士が情報交換し、どのように連携できるかを考えていかなければいけない。
会長		地域活動者の活用と寄り添うことができる会議が必要。連携をとっていかないと、見える子どもの姿が狭まる。学校は地域に甘えさせてもらってもいいと思う。
委員		子育てサロンにはいつもくる人が同じ。地域のセンターではいろいろな人が来る。学校は気軽に来にくく感じるかもしれないが、地域の受け皿も増えていけばいいと思う。中学生になると、地域に出ることが少なくなり、家に引きこもるようになるので、違う目線で子どもを見ていかないといけない。
会長		中学校の受け皿がなく大変だと思うとともに、長年この課題は解決されていない。この会議でいい方向性が見えたらしいと思う。
委員		民生委員さんとコーディネーターさんとの情報交換、地域で気になる子につ

	<p>いて話し合った。学校と地域の情報を共有した。気になるケースについては学童や関係機関と連携して対応したこともある。どのような方に声をかけ、どのような人がキーパーソンになるのかを会議で話し、学校だけで抱えないように連携を密にしていきたいと思う。</p>
委員	<p>保育園で0~5才の子どもを見ていると、小学校、中学校に行った子どもの姿が想像つかない。このような会議で小中学校、地域の取組を知ることができていいと思う。今現在、子どもたちの感情障がいが見られる。愛着関係が築けなかつたことから、情緒障がいなどにつながる。保護者の前の姿と園での姿が全く違う。その姿が小中学校にあがると、自分で解決しないといけなくなる。でも何をしていいのかわからないため、子どもの心の傷が深くなる。保育園で人に甘えることを知る、慣れなくても気持ちを伝えることができるなどを伝えている。何よりも心許せる養育者に出会わないといけないので、どのようにすればいいのか考えている。園でやっていることを伝えていくと、子どもに負担を強いることなくサポートができるようになる。</p>
会長	<p>子育てをしている保護者が多忙化し、子どもの心が育ちにくい。親の未熟さを感じる。子育てに対する意識が薄くなっていると思う。それが子どもにしわ寄せがきている。本来は親育ちを訴えていかないと、保育者の負担が減らない。現場の苦労が伝わっていない。保育園、学校が課題を抱え続けている。コロナが落ち着くと、親に子育てについて話していく場をつくる必要があると思う。地域の方を学校現場にも送り、サポートする仕組みがあつてもいいと思う。教育委員会や学校は地域を活用する視点を持ってほしい。</p>
委員	<p>教育相談室に足を運べる人はいいが、そうでない人の支えが必要だと感じた。ホームスタディをすすめていても、親の悩みを聴いていることが多い。こちらの支援の体制を考えていかないといけないと思う。</p>
会長	<p>来られない人をどうするかという課題は何十年も解決されていない。</p>
委員	<p>個別対応と踏み込みは無理がある。広く幅広く活動が限界だと感じている。就学前、障がい者、外国籍を対象にしている。就学前は月1でママカフェをしている。子育ての課題を共有してもらっている。高校教諭OBが外国籍の方が様々な国の文化を学ぶ会を月に1回実施し、15名ほど集まっている。学校とは違う教育の場を提供できている。外国の食事を提供することによって、</p>

	交流が深まりよいものと感じている。障がい者の余暇支援は健常者は参加できないので、スマイルの会を立ち上げ、障がい者も健常者も参加できる安土オリジナルの活動を実施した。市の活動には行けないが学区の活動には参加できる人もいる。
副会長	地域ごとのよさがあるので、様々な取組があつていいと思う。
事務局	各まち協ごとに保護者支援をしているのですか。
委員	他の学区もしている。子ども食堂をメインにしている学区がほとんどだと思う。武佐の子ども食堂が一番よくできていると思う。
事務局	各まち協の保護者支援も活動を知ることも大事だと感じた。
委員	まちづくり協働課がまとめた冊子を作っているので、確認することができる。コミュニティスクールはまち協の力が必要なので、学校との連携もあると思う。
会長	地域の頑張りに頭が下がる。これが輪になるといいなと思う。学校、行政には限度があるので、地域の方々の活動にも目を向けてほしい。
副会長	地域で過ごす子どもを温かく関わってくださる地域の方の存在がありがたく思う。 地域に集まる場があることもありがたい。プレイステーションがあるのも、保護者さんのありがたい場になっている。 なかよし会を特別支援学級の保護者でつくった。親がつながることで、子どもが助かる。見守る側がつながることで子どもが救われる。学校内での親のつながりが大切だと思う。それがコミセンや地域ごとにあってもいいのではないかと思った。
会長	いただいた資料の説明をお願いします。
委員	県人権教育課の事業で「人と人が豊かにつながる学校づくり支援事業」に取り組んだ。子どもと子ども、先生と子ども、家庭と学校がつながることを意識している。人間関係に安心して落ち着いている子はテストの点数が上が

	る結果が見られた。
会長	専門的な人に入ってもらうことで、新しいことが見えてくる。
事務局	この事業を通して、教師が子どもとの関わりを見つめなおすことができ、人間関係で安心感を得る子どもが増えた。「自分のよいところを認めてもらえる」、「周りから大事にされている」と感じる子どもが増えた。1年の取組をもとに、来年度につなげてもらいたい。
会長	この事業については親にも伝えてほしい。校長先生の温かい理解がこの結果を生んでいると思う。
委員	来年度も年度はじめに市内の支援について周知していく予定。市内在住の幼小中の子どもたちを対象に支援を続けていく。お子さんを連れてくることもある。小学生の方が少し多い。
副会長	花 bee と保護者連絡協議会について。障がいを持たない子どもの保護者の連絡もつながってきている。まだ検査を受けていないお子さんの相談もある。私たちとつながることで気づきがあればと思う。障がいの特性を知ってもらうために花 bee の活動も行っている。小学校や学童でも授業を行っている。
会長	学校が難しくても、コミセンで親が集まる場が月に1回でもあればいいなと思う。 PTA が先生や子どもに喜んでもらえるようなものだと引継ぎしていただければと思う。
	6 あいさつ（推進協議会副会長）
副会長	女性も働く時代になり、家庭ではいろんなことが出てきている。保護者の社会進出と子育てがうまく回ればと思う。コロナ禍でいろんなことがストップするのではなく、家庭支援で親も子どものよさを認めてもらえることが大切。そんなことができる地域が増えればと思う。
	7 閉会

担当課→総務課